

November 16, 2025

美しい神

詩篇 27:4

27:4 一つのことを私は主に願った。／それを私は求めている。／私のいのちの日の限り 主の家に住むことを。／主の麗しさに目を注ぎ／その宮で思いを巡らすために。

一、神が分け与えてくださるご性質

「神はどのようなお方ですか。」そう尋ねられたら、どう答えますか。おそらく、「神は、世界のあらゆるものを造られた創造者です。ですから、神は、何でもおできになる全能者です。そして、神は人を愛し、守り、養い、支え、導く父なる神です」と答えることでしょう。使徒信条に「われは天地の造り主、全能の父なる神を信ず」とある通りです。

神がどんなお方であるか、それは神ご自身が語っておられます。神はモーセにこう言われました。「主、主は、あわれみ深く、情け深い神。怒るのに遅く、恵みとまことに富み、恵みを千代まで保ち、咎と背きと罪を赦す。」（出エジプト 34:6-7）聖書は、神の自己紹介の書物です。神ご自身が、「わたしは、憐れみ深く、情け深く、恵み深く、真実である」と言っておられます。聖書は、また、神を信じる者たちの神についての証言集です。詩篇 86:15 でダビデは、神が言われたことにそのまま答え、「しかし主よ／あなたはあわれみ深く 情け深い神。／怒るのに遅く／恵みとまことに富んでおられます」と言っています。自分の体験から証ししています。

「あわれみ深い」、「恵み深い」などといった神のご性質を

神学の言葉では「属性」（Attributes）と言います。神の属性は二つに分けることができます。一つは「流通属性」（Communicable Attributes）で、神が私たち人間にも分け与えてくださったものです。「流通属性」には、「知恵」や「知識」、「義」や「聖さ」、「善」や「愛」などがあります。

まず、神の知恵・知識についてですが、神は人間にそれをお与えになり、人間は、それによって他の生き物を従えています。しかし、人間が生き物の頂点に立ったからといって、それで人は幸せに生きることができるわけではありません。神は、人間に顕微鏡や望遠鏡を作り出す知恵、知識をお与えになりましたが、同時に、顕微鏡や望遠鏡では見ることのできない神を知る知恵、知識も与えてくださいました。人は神を知り、神を仰ぎ見ることによってはじめて幸いを得るからです。

しかし、私たちが神に近づき、神と結ばれるためには、知恵や知識だけでは足りません。神の前での正しさ、「義」や「聖さ」が必要です。けれども、人間の正しさや聖さは、まるで頼りにならないもので、神には通用しないのです。それで神は、イエス・キリストの正しさと聖さを、信仰によって受け取ることができるようにしてくださいました。エペソ 4:24 は、イエスを信じて生まれ変わった者は、「真理に基づく義と聖をもって、神にかたどり造られた新しい人」になったと教えています。

そして、「義と聖」を受けた者に、神は、さらにご自分の性質を分け与えてくださいます。ガラテヤ 5:22-23 に「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」という御霊の実があげられていますが、これらはみな、神のご性質から生まれたものであり、それらのご性質は神の御子であるイエスが

この地上で表してくださったものです。神は、私たちの罪を赦し、もう私たちの罪を責めることをなさらないだけでなく、ご自分の性質を分け与えることによって、私たちを罪の性質から解放し、キリストに似たものにしてくださいます。これが救い、イエス・キリストによる救いです。

ペテロの手紙第二 1:3-4 にこうあります。「私たちをご自身の栄光と栄誉によって召してくださった神を、私たちが知ったことにより、主イエスの、神としての御力は、いのちと敬虔をもたらしすべてのものを、私たちに与えました。その栄光と栄誉を通して、尊く大いなる約束が私たちに与えられています。それは、その約束によってあなたがたが、欲望がもたらすこの世の腐敗を免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」
「神のご性質にあずかる者となる。」じつに大胆な言葉ですが、これは、神が、私たちをキリストに似た者へと造り変えるために、聖霊によって、ご自分の性質を分け与えてくださることを言っているのです。

二、神だけが持つておられるご性質

私たちが神のご性質にあずかり、キリストに似たものになるといっても、それは私たちが神になるわけでも、キリストになるわけでもありません。人間はどこまでいっても人間、神はどこでも神です。神には、どんな被造物も持つことがない、神だけが持つておられるご性質があるからです。それは、「非流通属性」（Incommunicable Attributes）と呼ばれ、「独立性」、「不変性」、「無限性」、「純粋性」などです。

この世界も人間も、他のものに支えられなければ存在することはできません。しかし、神は何に支えられなくても存在して

おられます。それが神の「独立性」です。

また、世界も人間も絶えず変化します。しかし、神は変わらないお方、不変の神です。ですから、神は、「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに真実の愛を尽くし続けた」（エレミヤ 31:3）とすることができるのです。人の愛や真実は変わります。しかし、神の愛と真実は変わりません。

また、世界も人間も有限ですが、神は無限のお方です。神の知恵、知識は無限、また、そのお力も無限です。ですから、神は「全知全能」なのです。そして、神の愛も無限であり、それはどんな深い罪の中に沈んでいる人にも届くのです。

そして、さらに、神は「純粹」なお方です。聖書は「神は唯一です」（テモテ第一 2:5）と言っていますが、これには、神がただお一人であるというだけでなく、神は数多くのものに分割されることのない完全に一体な存在であるという意味とがあります。

世界も人間も、さまざまに異なった部分によって構成されています。現在、物質の元素の数は 118 とされています。人間も、霊とたましいとからだから成り立ちます。からだは、東洋医学では、「五臓六腑」といって、11 の臓器から成り立ちます。「五臓」とは「心臓、脾臓、肝臓、肺、腎臓」、で「六腑」は「胆のう、小腸、胃、大腸、膀胱、三焦」のことです。神は、世界と人間に調和をお与えになったのですが、それが崩れてしまうことがあります。地球環境のバランスが失われたり、心とからだの調和がくずれたり、臓器と臓器がうまく噛み合わない、免疫機能に問題があって病気が生まれるなどといったことが起こるのです。しかし、神は、そのような分割された

ものがない、お一つのお方であり、したがって、変わるものがないお方なのです。

神が、永遠、無限、不変の独立した、純粋な存在であるというのは、私たちの思いを超えています。しかし、まったく理解できないわけではありません。聖書に「神はまた、人の心に永遠を与えられた」（伝道者 3:11）とある通り、神は、私たちに永遠を思う思いを与えておられます。私たちは神のお心とみわざのすべてを知り尽くすことはできませんが、私たちが確かに豊かな人生を歩むために必要なことは知ることができます。そして、時間にしばられ、何においても限りがあり、絶えず移り変わる、頼りにならない、危うい存在である私たちであっても、神の永遠、無限、不変の独立した、純粋な存在によって支えられていることを知ります。そして、日々を、神をあがめ、感謝して歩むことができるのです。

三、私たちが思い巡らすべき神のご性質

聖書には、「神は愛です」（ヨハネ第一 4:16）、「神は真実です」（コリント第一 1:9）といった短い言葉が多くあって、神がどのようなお方かを的確に教えています。詩篇 119:68 は。日本語では、「あなたは いくしみ深く／良くしてくださるお方です」と訳されていますが、英語では “You are good and do good.” となっています。こうした言葉を覚えて、口に出して唱え、神のご性質を思い巡らすことは、とてもよいことであり、大切なことです。

きょうの箇所、詩篇 27:4 には、「主の麗しさ」という言葉があって、神が美しいお方であると言われています。一般に、この世で価値あるものは「真理」と「善」と「美」であると言わ

れますが、神は、「真・善・美」のすべてを備えておられる、いや、神は、人々が「真・善・美」と呼ぶものの源であるお方なのです。

神が「美しい」お方であるというのは、あまり気付かれることがありませんが、見逃してはならない神のご性質の一つです。私たちは、自然の風景を見て、「美しい」と感じますが、それは、自然を造られた神が美しいお方だからなのです。人々が互いに助け合い、支え合う姿を見ても、「美しい」と感じますが、私たちに、互いに愛し合うことを教え、その愛を授けてくださった神は、もっと美しいお方です。伝道者 3:11 に「神のなさることは、すべて時にかなって美しい」とあるように、美しいみわざをなさる神は美しいお方なのです。

ある人が、「`美、という文字は `羊が大きい、と書く。神の子羊であるイエス・キリストこそ、最高に美しいお方である」と言いました。「神の子羊」、それは十字架で私たち罪ある者の罪を背負って痛められ、苦しめられ、血を流して死んでゆかれたイエスのことです。十字架のイエスのお姿ほど、むごたらしいものはありません。しかし、その十字架によって救われた者たちは、十字架を美しいものとして愛するのです。屠られた子羊を慕わしいお方として賛美するのです。「丘に立てる粗削りの」（新聖歌 108）にこう歌われています。

世人笑いあざけるとも 十字架は慕わし
子羊イエス神の御子が つけられし木なれば
朱けに染みし粗削りの 十字架は麗し
赦し与えきよくするは ただ主の血あるのみ

神の麗しさ、美しさ、また子羊イエスの栄光を思いみるのに

は、ある程度の時間が必要です。詩篇 27:4 には、「一つのことを私は主に願った。／それを私は求めている。／私のいのちの日の限り 主の家に住むことを」とあります。「主の家」とは神殿のことです。そこは礼拝の場所であって人が住む場所ではありません。祭司が聖所のともしびを灯し続けるために神殿に泊まり込むことや、警備をする人々が夜を過ごすことはあっても、そこに住むことはできません。「主の家に住む」とは、神に近づき、神のもとで十分な時間をとって神と交わることを言っているのです。

カリフォルニアにいたころ、日本からの来客をいろんなところに案内しました。多くの人々は、一箇所にとどまって景色を眺めたり、ミュージアムでの展示をくわしく見たりしないで、パチパチ写真をとって、次から次へと進むのです。「写真で見ると、なにも現地に来る必要はないのでは…、実物をゆっくり鑑賞してこそ、意味があるのでは…」と思ったのですが、それを口に出すわけにもいきません。案内している私が置いていかれることがしばしばでした。現代人は忙しく行動します。しかし、聖書は、こう言います。「私のいのちの日の限り 主の家に住むことを。／主の麗しさに目を注ぎ／その宮で思いを巡らすために。」神の麗しさ、美しさに心が奪われ、いつまでも主を見つめていたい。そんな気持ちで神を仰ぎ見、イエスを思い見たいものです。

「真・善・美」の「真」は「真理」のことで、それは人の理性を満たすもの、「善」は「行動の基準」のことで、それは人の意志を導くものです。「美」は人の「感性」に働きかけます。人は「知・情・意」の3つを持っていますが、神のご性質を思い見ることは、そのすべてを満たすのです。主の麗しさ、

イエスの美しさを思いみることによって、たましいの満たしを得て、日々を過ごしたいと思います。

(祈り)

主なる神さま、今日、あなたが持つておられるご性質について学びました。無限であり永遠である神さま、私たちがあなたについて知っていることはわずかしきありません。もっと、あなたを正しく、深く知ることができますように。そして、それによってあなたの真実を、善を、また、麗しさ、美しさをほめたたえる者としてください。主イエスのお名前です。